

令和6年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和6年2月3日
江別市立文京台小学校

1 本年度の重点目標

- 重点1 主体的な学びとなる授業改革に努め、未来へつなぐ学校づくり
- 重点2 他者を思いやり、共に高め合う仲間づくりを進め、夢や希望を広げる学校づくり
- 重点3 地域とともに歩み、学んだことの意義を実感できる学校づくり

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

(自己評価は4点満点中、3.4…85%程度 を達成値に設定している。)

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
経営方針の重点	■本年度の重点目標が実現可能な具体性をもって明確に示され、実践されているか。 【経営の重点と具体的な取組指標】 重点目標：「なりたい自分」を描き、他と共に高め合う文京台の子 【重点1】主体的な学びとなる授業改革に努め、未来へつなぐ学校づくり ・学習に関わる評価の平均値 教職員…3.6 児童…3.5 保護者…3.1 【重点2】他者を思いやり、共に高め合う仲間づくりを進め、夢や希望を広げる学校づくり ・児童の豊かな心に関する評価の平均値 教職員…3.5 児童…3.6 保護者…3.3 【重点3】地域とともに歩み、学んだことの意義を実感できる学校づくり ・地域や大学との連携に関する評価の平均値 教職員…3.8	A	評 児童の実態と令和5年度の学校評価から、令和6年度の重点目標を上記の3点とした。昨年度末と今年度当初、重点目標とそれを受けた具体的な教育活動の姿を教職員で確認し、年2回の教職員・児童・保護者を対象とした学校評価（中間評価・年度末評価）を通して教育活動の見直しを行った。 学校評価は達成値を3.4に設定した。多くの項目で達成もしくは達成に近い数値が出ていることから教育活動の成果が表れてきていることがわかる。 保護者評価は教職員評価、児童評価に比べ、数値が低く出ている。学校から見える子どもの姿と家庭における子どもの姿には違いがあるとしても、学校は真摯に受け止め、休むことなくより良い学校づくりに努めていく必要がある。 ※【重点1】の保護者評価が教職員・児童の評価と乖離している原因のひとつに、読書の実態が学校と家庭で大きな差があることがわかった（後述）。 子どもたちの力を伸ばしていくためには学校と家庭・地域が連携して教育活動を進めていくことが大切であると考え。 改 学校評価等から見える文京台小学校の課題、教育の方向性を全教職員が常に意識しながら教育活動を進めることが大切である。そのためには今後も企画運営委員会のような組織を効果的に活用し、全職員の主体的な参画と信頼関係を基盤とした協働体制を確かなものにしていく。	A	A
	■重点についての取組や成果・取組状況等が広く発信され、家庭や地域の理解と協力を得て、学校経営が進められているか。 【評価指針と評価結果】		評 今年度は学校HP上において、学校の様子を毎日発信し、学校の教育活動や児童の様子を伝えた。また、昨年は学校だよりだけだった保護者への電子配信を学校から出		

	学:情報発信～特色ある教育活動や児童の様子を紹介等、自校の成果と魅力の最大限の発信…3.8 保:学校は、参観日や個人懇談、学校・学年だより、マチコミメール、学校HP等により、学校や子どもの様子などがよく伝わるように努めている…3.6	A	すお知らせ文書全体に拡大し、WEB上の書庫をすることで、確実に保護者に情報が伝わるようにした。 改次年度は週末に発行する学年だより（翌週の時間割）配付に関して電子配信も併用して行う。（小学生が時間割を調べるのに必要なことから紙媒体は残す。）時間割という性質上、これまで週末に欠席した場合、担任が家庭まで届ける、もしくは保護者が取りに来るということが行われていたが、電子配信によりその業務を省き、働き方改革へつなげていく。	A	A
教育課程・学習指導	■授業改革…基礎・基本を定着させ、3つの資質・能力（①「知識・技能」②「思考力・判断力・表現力」③「学びに向かう力・人間性等」）を育む教育が推進されているか。 【評価指針と評価結果】 学:学習規律、ノート指導等、学力向上に関わる基礎・基本の徹底…3.7 学:TT指導や個別指導・教科担任制を活用した学習指導の充実…3.9 学:家庭学習習慣確立のための工夫…3.4 学:教科で身につけた知識・技能を活用できる特色ある教育活動の充実…3.5 児:授業では、よく考え、伝え合い、考えが深まっていますか…3.4 児:自分の考えをすすんで発表したり、書いたりすることができていますか…3.4 児:授業で学んだことを、次の学習や他の教科、生活の場面でいかしていますか…3.5 児:学校の勉強はよくわかりますか…3.7 保:学習のきまりを大切にし、意欲的に学習に取り組んでいる…3.2	A	評アンケート等からは児童自身が学習に向かう力の高まりを実感していることがわかる。また、全国学力・学習状況調査やNRT標準学力検査等からも本校児童に学力が定着していることがわかった。 改次年度以降も授業改革や指導体制の工夫を続けることで、児童が主体的に学び、対話等を行いながら、問題の解決を行うことができる学習環境づくりを行う。ICTの効果的な活用や対話に価値をもたせる授業を充実させることで児童の資質・能力を育んでいく。そのためには、授業改革に関する教職員の研修をこれまで以上に充実させる必要がある。	A	A
	■今日的教育課題…時代を見通したあらゆる可能性を育む教育が推進されているか。 【評価指針と評価結果】 学:ICT機器を積極的に活用した教育活動の工夫・改善…3.8 児:タブレットを使った学習に進んで取り組んでいますか…3.9 保:学校は、ICT活用等、授業の工夫に積極的に取り組み、「確かな学力」の育成に努めている…3.3 学:家読、朝読書の取組等、豊かな心と読む力を育てる継続した読書指導の推進…3.6 児:学校や家で、すすんで本を読みましたか…3.3 保:お子さんには一日の中に読書の時間を設けたりするなど、家庭でも本に触れる機会がある…2.7 学:キャリアパスポートを活用したキャリア教育の充実…3.3	A	評全学年でICTを効果的に活用した授業が実施されるようになった。授業も「ICTを使った授業」から「教科のねらいに沿ったICTを使った授業」という具合に質の高まりも見られるようになった。これまでも評価が低かった読書活動については、今年度、教職員や保護者による読み聞かせの実施等、学校で様々な取組を行った結果、校内における読書活動は充実が図られるようになった。しかし、保護者からの評価が低いことから学校で読書に取り組む姿と家庭で読書に取り組む姿に差があると考えられる。家庭との連携による読書活動の充実が必要である。 改今年度、定期的に実施してきたICTに関する研修を次年度も継続させ、教職員のスキルをさらに高めていく。読書活動について	A	A

			は保護者による読み聞かせを地域の方々にも広げる等して、本に親しむ環境づくりをさらに進めていく。		
生徒指導	■健康・安全…健康で活力ある生活を日常化させる教育が推進されているか。 【評価指針と評価結果】 学: 体育授業、体力テスト等を最大限に活用した体力づくりの充実…3.6 児: 体力づくりにすすんで取り組みましたか…3.6 保: お子さんには適度に体を動かした遊びやスポーツに取り組む機会がある…3.1 学: 「大麻スタンダード生活8箇条」定着に向けての指導…3.6 児: 「大麻スタンダード生活8箇条」を守ることができましたか…3.5 保: 集団や社会のきまりを守るなどの規範意識が育っている…3.4 学: 素直な心の育成、挨拶の徹底等、予防的生徒指導の推進・積み上げ…3.7 児: 自分から進んで挨拶をすることができていますか…3.6 保: 元気で明るい挨拶ができています…3.3	B	評 今年度も北翔大学の教職員、学生の方々に支援を得て、全学年で体力テストを実施することができた。学校としても日常的に外遊びで体を動かす機会を多く作るようにした。保護者アンケートの数値は中間評価が3.3、年度末評価が3.1と0.2ポイント減となった。アンケートを実施したのが秋であり、気温の低下と日没時間の早まりにより、外遊びの機会が減ったことも一因であると考えられる。生活のきまりである「大麻スタンダード」の評価は教職員、児童、保護者とも達成値に達しており、きまりを守り、落ち着いて学校生活を送っていることがわかる。学校での指導だけではなく、教育に関心が高い保護者が多いことも要因と考える。児童アンケートによる挨拶の評価は高いが、実際には来客等に対しては挨拶のできる子が少なくなる傾向も見られる。 改 来年度は体力テストの前に、児童に対し、北翔大学の学生による指導助言の時間を設ける等して運動能力をさらに伸ばしていく。挨拶については児童会による「あいさつ運動」等を継続し、子どもたちの手による活動を大切にしていく。一方で、家庭や地域とも連携を図り、挨拶の意義などを意識させ、自然に挨拶ができる児童を増やしていく。	A	A
	■豊かな心…自主性、思いやりの心を育てる教育が推進されているか。 【評価指針と評価結果】 学: 心に響く道徳教育の推進と道徳指導に関する研修の充実…3.1 学: Q-U 検査等を活用した思いやりのある支持的風土の学級づくりの推進…3.6 学: 自主性や思いやりの心を育む児童会活動の推進…3.4 学: 家庭・地域と連携し、生命尊重を基盤とした健康・安全教育の推進…3.6 児: 友達と助け合いながら、仲良く過ごすことができていますか…3.8 児: 先生とたくさん話をしたり、困ったことがあったときに相談したりしていますか…3.3 保: 命を大切にする態度や人を思いやる気持ち、感動する心など、「豊かな心」が育っている…3.2	B	評 自主性、思いやりの心を育てる教育を推進するために、児童スローガンとして『すすんで「はいっ！」思いやりと感謝の「ありがとう！」』を挙げ、児童に浸透させてきた。また、「かがやきの木」運動や児童会による「ありがとう活動」等、互いのよさに気づかせたり、感謝の思いを持たせたりするよう、意図的・計画的な取組の積み重ねが成果として表れてきている。多くの学級において支持的風土が醸成されており、児童間のトラブルも少ない。また、学校行事等においては児童同士で助け合いながら目標達成に向けてがんばる姿が見られた。 改 次年度は「判断力があり、目標達成のために自らの意思で行動しようとする態度」である『主体性』の伸長を重点に据えて教育活動を行う。そのためには教職員自身が自主性と主体性の違いを理解し、主体性を	A	A

			伸ばすためにどのような教育環境を整え、どのようにして児童に関わっていくのが適切なのかを研修し、実践していく必要がある。		
	■学校いじめ防止基本方針に基づいて、実態等を周知したり、組織的に対応したりすることができているか。 【評価指針と評価結果】 学：Q-U 検査いじめ・不登校～いじめアンケート等を活用した実態把握と全職員による粘り強い対応…3.8 児：友だちと助け合いながら、仲良く過ごすことができていますか…3.8 児：学校へ通うのが楽しいですか…3.6 保：子ども同士や教師とのコミュニケーションをとることができている…3.4 保：学校は保護者とのコミュニケーション（子どもに関しての連絡・相談）を積極的に行い、意思疎通に努めている…3.4	A	評 学校では国や道の指針に則り、年3回のアンケート等（うち2回は道教委による調査・1回は江別市独自の調査）や、児童との個人面談、日常の様子観察、教職員間の情報交流による実態把握といじめの未然防止に努め、積極的ないじめの認知と早期解決に心がけてきた。また、北翔大学の山谷学長を講師に招き、Q-U 検査の研修を実施し、心理的安全性が保障されるいじめが起きない学級づくりに努めた。 改 いじめ対応については、未然防止・初期段階での解決が重要である。日常的な児童と教師、家庭と学校とのコミュニケーションを基盤に、いじめが起きにくい環境づくりに努めると共に、児童・保護者が相談しやすい関係性の構築と、丁寧な説明や対応、組織的で素早い対応が重要であることを念頭に置きながら教育活動を進めていく。	A	A
小中一貫教育	■義務教育9年間の「目指す子ども像」実現に向け、「系統的な指導」「一貫した指導」「相乗的・補完的な指導」を行い、教育活動を充実させることができたか。 【評価指針と評価結果】 学：小中一貫教育～各部が組織的に校区内小中学校と連携した小中一貫教育の推進…3.1 学：翌年度以降の進級・進学を見据えた指導…3.5 学：「大麻スタンダード生活8箇条」定着に向けての指導…3.6 児：「大麻スタンダード生活8箇条」を守ることができましたか…3.5	B	評 大麻中学校区では今年度より「教科部会」を発足させ、各教科の小中学校間の系統的な指導の充実を図った。昨年度よりスタートした小中学校共通の学習規律・生活規律「大麻スタンダード」については指導の積み重ねにより児童に定着してきた。しかし、4校の小中学校の職員による連携には課題があり、意思疎通・連絡が充分ではない部分も見られた。 改 令和8年度に文京台小に事務局が来ることから事務局業務を受け入れる準備をしながらの業務推進が必要。今後改善が必要な課題としては教職員間のスムーズな連携、大麻中学校区4校CSの同日、同場所での開催と交流等を行いながらCS組織の一体化を推進していくことが挙げられる。	A	A
学校組織	■質の高い教育活動等を推進する学校組織体制を構築することができたか。 【評価指針と評価結果】 学：全職員の主体的な参画と信頼関係を基盤とした協働体制の確立…3.6 学：江別市働き方改革の徹底と日常の業務改善の工夫…3.1	B	評 各部チーフが集まって学校運営について協議する企画運営委員会の充実が図られ、学校教育の方向性が定まり、全教職員の共通理解のもと、学校づくりを行う風土が醸成された。教職員の連携が図られたことにより会議時間も短縮できるようになった。しかしながら、教職員の業務の整理にはまだまだ課題が残るため、働き方改革の一層の推進が必要。	A	A

			改 校内体制の見直しを行い個々の教職員が抱える業務量の平準化を図る。また業務に関するデータの蓄積と活用を行うことで業務推進に関わる時間の短縮化を図り、教職員が子どもたちとゆとりをもって向き合うことができる時間を確保していく。		
地域連携	■保護者や地域（自治会・大学等）と連携・協力し、地域の教育力を生かしながら、地域に開かれた「信頼される学校」づくりが進められているか。 【評価指針と評価結果】 学: 家庭・地域連携～目標やビジョンを家庭・地域と共有するなど信頼される学校づくりの推進…3.6 学: 大学連携～体力テスト、出前授業、授業ボランティア等による体験的授業づくりの充実…3.9 学: コミュニティースクール～学校運営委員会との連携充実による地域と共にある学校づくりの推進…3.8	A	評 文京台小学校は、北翔大学との連携協定のもと連携教育が実践できている。また、学生による様々なボランティアの支援も受けながら、「社会に開かれた教育課程」を展開することができている。修学旅行での横山教授による火山学習、大宮准教授による体育の出前授業、山谷学長による教職員への研修等を実施することができた。 P T A活動においては、P T A主催のイベントを夏、冬の年2回計画した。夏は保護者ボランティアを募り、昨年度よりも規模を拡大し実施することができた。（冬は少雪のため中止）。また、校舎に設置されている天体望遠鏡を利用した「星見会」での月や金星の観察は全家庭を対象に実施することができた。 学校運営委員会との連携においては、横山委員長に講師をお願いし、今年度新たな事業として「親子で学ぶ防災教室」を実施した。学校教育の中では時間の確保が難しい実際の避難の現場について考えることができる貴重な事業となった 地域との関わりにおいては文教クラブのみなさんと共に地域の環境づくりに取り組む活動も行うことができた。 改 児童の実態や学校が抱えている課題について、情報提供や連携を進め、学校・家庭・地域が一体となって児童の健やかな成長に積極的に関わることで、いっそう「地域とともにある学校」づくりを進めていく。	A	A
【評価項目の設定、達成状況及び改善の方策に関する学校関係者評価委員の意見】 ・生徒指導に関する学校評価の数値は達成できていると判断することもできるが、学校として達成状況を「B」としていることから、学校が児童の健康・安全や豊かな心の育成を大切に考えているということがわかった。児童には「挨拶がしやすい状況」とそうではない状況があることがわかった。学校だけではなく、家庭・地域と共に挨拶ができる子どもを育てていきたい。 ・読書や体力づくりについて学校での実態と家庭での実態が離れていることが明らかになった。学校教育と家庭教育の連携については今後も考えていかなければならない。 ・学校での新たな取組が教職員の負担になっていないかが心配だ。何かをするなら何かを減らすということも考えていかなければならない。 ・地域の方々の見守りが非常にありがたい。また、文京台小学校の教職員はチームワークが良く、子どもたちが安心して生活できる場所を地域と学校が連携して作っていることが素晴らしい。 ・今後の展望として、地域とP T Aが一緒になって学校を支える仕組みにしていけたら良い。					